

授業科目名	持続性科学と SDGs		
主担当教員(所属)	齋藤 文紀(エスチュアリー研究センター)	単位数	2.0
履修年次	1年, 2年	開講学期	2022年 通年
曜日・時限	他	必修/選択/選択必修/自由	選択

授業形態	講義
授業の目的	現在地球環境は様々な問題を抱えている。持続的な社会構築に向けた持続性科学や 2030 年を目標に国連が推進している SDGs に関する基礎的な知識や考え方を取得し、持続的な社会構築に向けた俯瞰的な視野を涵養する。
授業の到達目標	様々な専門分野から見た持続性科学や、持続的な社会構築を 2030 年を目処に目指している SDGs の基本的な考え方や取り組み例を学び、持続的な社会構築に向けた基礎的な素養を修得する。
授業の内容および方法	以下の講義がオムニバス方式で行われる。 原田 守, 「健康長寿を目指した免疫力の維持に基づくがん治療」 竹谷 健, 「実現可能な再生医療」 吉山裕規, 「ワクチンが繋ぐ健康社会」 松本一郎, 「SDGs 達成に向けての科学技術の重要性」 関 耕平, 「公害の教訓と環境政策」 齋藤文紀, 「持続的視点からみた人新世の沿岸環境」 入月俊明, 「過去から学ぶ地球の気候変動」 飯田拓基, 「グリーンケミストリー: 環境に優しい有機合成手法の開発」 赤間一仁, 「植物科学とバイオテクノロジー: 人類を救う植物の力」 本山 岳, 「クリーンエネルギーを創出する機能性材料」 GYUYEN Thu Lan, 「グイエンツラン」持続性と騒音政策」 増田浩次, 「光通信におけるフォトニクス」 宮本光貴, 「SDGs における原子力が果たす役割」 千代章一郎, 「建築における「遺産」とは何か」
授業の進め方	Moodle によるオンデマンド授業
授業キーワード	SDGs、持続性科学、地球環境、医療、公害、グリーンケミストリー、バイオテクノロジー、クリーンエネルギー、光通信、原子力、建築遺産、健康社会
参考文献(その他)・授業資料等	地球環境の限界と持続可能な開発目標(SDGs) https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/h29/pdf/1_1.pdf https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html
成績評価の方法およびその基準	単位の認定基準は次のとおりです。 1. 2/3 以上の出席が必要です。 2. レポートの合計を 100 点満点で評価し、60 点以上を合格とします。
履修上の注意	年間を通してのオンデマンド授業になります。各講義で更に知りたいことがありましたら、講義の先生まで連絡してください。質問を歓迎します。
オフィスアワー	火曜日 12-13.
ディプロマポリシーとの関係区分	

アクティブラーニング区分	知識の定着・確認志向 (思考の活性化)	振り返りシート(ミニッツペーパー)、授業外学習の促進(予習・宿題)、実験、質疑応答(コメント・シートなど)、練習課題、調査、ミニテスト・クリッカー	実施頻度:0:実施していない
	表現志向 (表現技能の充実)	プレゼンテーション、ディベート、ライティング	実施頻度:0:実施していない
	応用志向 (知識・スキルの活用)	問題基盤型学習(Problem-Based Learning)、専門演習、シミュレーション、ケースメソッド	実施頻度:0:実施していない
	知識の活用・創造志向 (総合的活動)	プロジェクト型学習(Project-Based Learning)、フィールドワーク、創作活動	実施頻度:0:実施していない
多面的評価区分	評価方法		
	客観試験(選択解答式など)		ー:成績評価に使用していない
	口頭試験(発表・プレゼンテーション試験、インタビュー試験)		ー:成績評価に使用していない
	論述試験(論文テスト、記述試験、数学の解法記述)		ー:成績評価に使用していない
	シミュレーション型試験		ー:成績評価に使用していない
	実地試験(実技試験)		ー:成績評価に使用していない
	レポート		
	ポートフォリオ評価法		ー:成績評価に使用していない
	その他		ー:成績評価に使用していない
	自由記述		
	評価指針		
評価基準表(ルーブリック)		ー:使用しない	
使用言語区分	日本語のみ		
その他	この授業はオンデマンドで開講されます。島根大学の Moodle の大学院生向け https://moodle.cerd.shimane-u.ac.jp/moodle_2022/course/view.php?id=1091 にアクセスして、Moodle にログインし、登録キー sdgs2022j を入力して各自でコースに登録してください。担当教員に連絡をとる場合は、Moodle 上から担当教員宛にメッセージを送信するか、ysaito@soc.shimane-u.ac.jp の齋藤文紀まで連絡してください。		
準備学修(予習・復習・宿題)に必要な学修の時間(1回の授業当たり) /Time required for homework	動画視聴又は同期型授業への参加 100 分(小テストへの解答時間を含む)、予習・復習合わせて 100 分、レポート作成 200 分、計 6.7 時間		
授業の実施方法 /Types of classes	遠隔授業(非同期型オンラインのみ) / Remote class (Asynchronous online only)		